

平成 21 年 2 月 5 日
都 市 計 画 局
(担当 歩くまち京都推進室)

第 1 回「京都市駐車場整備連絡協議会」の開催について

第 1 回「京都市駐車場整備連絡協議会」を開催致しましたので、下記のとおり報告致します。

記

1 日 時 平成 21 年 2 月 5 日（水）10 時～12 時

2 場 所 職員会館かもがわ 2 F 大会議室

3 出席者 別紙出席者名簿参照

4 議事内容

（１）開会

里見都市計画局長挨拶

- 本協議会においては、現状を踏まえるとともに 10 年先を見据えた計画をご議論いただきたいと考えている。委員の皆様には、お忙しいところ参集いただいたことに感謝申し上げるとともに、活発なご議論を賜りますようお願い申し上げます。

（２）出席者紹介

塚口会長挨拶

- 京都市が推進されている「歩くまち・京都」の実現にあたって、駐車場政策は非常に重要なものである。駐車場の適切な配置と、公共交通の充実の二本柱によって、「歩くまち・京都」の理念が現実化すると言える。京都市の特性を踏まえた地域ルールを定めていく必要もあるのではないかと考えている。各方面からの議論を頂きながら、進めていきたいと思うので、よろしくお願いします。

（３）議事

ア 本協議会の目的およびスケジュール

イ 前回の駐車場整備計画策定時の状況と現状

ウ 「京都市駐車場整備地区における駐車場整備計画」改定方針のポイント

(4) 意見交換

(長谷川委員)

- 参考資料－３に用意されている現在の駐車整備計画を改定されることが本協議会の目的であるとのことであるが、資料－４に整理されている前回からの状況の変化を踏まえると、かなり言及する範囲が広がるように思われる。議論の結果によっては、計画の内容の範囲が広がるという理解でよろしいか。

(事務局・林委員)

- 駐車場の質的な議論を含め、スタンスとしては幅広く、現状に即した議論をしていきたい。

(槇村委員)

- 議論の対象としては、駐車場整備地区に限定したものか、周辺部も含めた議論とするのか。

(里見局長)

- 駐車場整備地区としては現在の範囲をベースとし、駐車場整備地区への駐車重要を抑制する手段といった観点から周辺部についても議論が必要であれば、議論いただきたい。

(塚口会長)

- 駐車場整備地区の範囲の変更が必要かどうかについても、協議会として確認をした上で、議論を進めていきたい。

(早瀬委員)

- 「歩くまち・京都」という考え方を中心にすると都心部と京都駅周辺が対象となると思われるが、環境問題を考慮するならば京都市全域を対象とすべきと考える。

(山田(忠)委員)

- 先ほどから、空間的にどのエリアを対象とするのか、という議論が盛んであるが、これに加えて、どういう状況を対象として議論をするのかということも問題定義したい。
一つ目は、将来の需要をどのように考えるか。まちなかの賑わいを創出にあたって駐車場需要は現状のままという計画で良いのか。
二つ目は、荷捌きと自動二輪は、乗用車の需要の傾向とは異なる場合があるが、どのように扱っていかれるのか。

(塚口会長)

- 荷捌きと自動二輪については、資料にも抽出して記載されているので、乗用車とは区分して考えておられると思うが、将来の需要について事務局のお考えがあれば伺いたい。

(事務局・佐伯委員)

- 駐車場は都市のインフラとして必要な公共施設であると認識している。需要は社会経済の状況によって変動するため一概には言えないが、まちなかについては「歩くまち・京都」

の考え方にしたいがい、特に通過交通の抑制につとめていきたいと考えている。

(長谷川委員)

- 人の動きと物の動きを別々にコントロールするような駐車整備が必要ではないか。荷捌き車両が立体式の駐車場を利用するといことは考えにくいし、人は自分で公共交通に乗れるが、物は誰かが運ぶ必要がある。

(山田(敬)委員)

- 現状把握について、もう少し詳しく把握されているのであれば教えて頂きたい。

(事務局・林委員)

- 参考資料－１に実態調査結果を、参考資料－２にアンケート結果を用意しており、事務局データとしては個別の駐車場の状況も調査はしている。

(織田委員)

- 百貨店としては駐車場の空き待ち車両が、周辺地区にご迷惑をかけている場合もあると思うので、駐車問題について考えて行かなければならないと思うが、地域内に用事があるクルマを抑制すべきか、通過交通を抑制すべきか、考え方の方向性を迷っているところである。

(塚口会長)

- 昨年京都市が実施された四条通の社会実験では、四条通の南北の街路は交通の約半数は通過交通であるとのことであった。

(芝原委員)

- 資料－４に客待ちタクシー対策とあるけれども、行きは元気なので歩いても、帰りは荷物があるのでクルマに乗りたいという人もいる。クルマのお客さんに駐車場券を渡すのであれば、クルマでないお客にはタクシー券を渡すといったことが必要ではないか。
- 駐車場の車高（2.1m）の制限だと、駐車できない車両も多くなっているように思うので、見直すことはできないか。車椅子を降ろそうと思うと、駐車マスの幅が狭い場合が多いので、見直すことはできないか
- 観光パーク&ライドについては、みんなで進めていければ、歩いて楽しいまちが実現できるのではないかと思う。

(松田委員)

- 市の交通政策の基本理念である「歩くまち・京都」の目指す方向性について、また交通政策だけでなく駐車場政策に関係する他の施策の取組状況についても、次回お示しいただければ有難い。

(事務局・佐伯委員)

- 「歩くまち・京都」総合交通戦略の審議会では、交通事業者の連携による公共交通の利便性向上の検討と、未来の公共交通優先のまちづくりのあり方の検討と、かしこくクルマを使うライフスタイルへの転換といった3本柱で検討を進めている。
現在では道路の機能をしっかりと果たしているか、路上駐車が公共交通の運行の阻害となっていて、公共交通の定時性の悪化を招いていないかといった視点も含めて検討を進めているところである。

(西海委員 (田尻代理))

- 今後の駐車需要の見通しについては難しいところがあるが、公共駐車場の整備が民間の駐車場の経営を圧迫することはないのだろうか。

(青木委員 (津田代理))

- 細街路の通過を禁止にすると、烏丸通や河原町通などの幹線道路の交通が混雑すると考えられるので、慎重に検討する必要がある。

(川村委員 (前田代理))

- 駐車場整備計画は、駐車場の整備台数だけを検討するものか。そうでないならば、容量が足りていても路上駐車がなくならないということに関して、料金体系や、駐車場の配置、案内システムといった対策が必要であり、そういったことも計画に盛り込んでどうか。

(事務局・林委員)

- 駐車場整備計画は、駐車場の整備に関する基本方針、目標年次、目標量、駐車に対する施策などを定めるものとされている。参考資料-2に、アンケート結果に基づく路上駐車をしてしまう理由を掲載しており、駐車時間が短いからが一番多いが、空いている駐車場が見つかりにくいとか、駐車料金が安いといった回答も寄せられている。

(田中委員)

- 平成3年に府警本部に駐車対策課ができて、取り締まり、駐車場整備依頼、啓発を3本柱として実施してきており、路上の瞬間駐車台数の実態についても、人が乗っていない、人が乗っている、タクシーといった区分で毎年調査を継続しているが、平成18年の違法駐車取り締まりの民間委託により状況が大きく変わった。
平成3年を100とすると前回の計画が策定された平成9年時点では80程度であったのが、平成19年は41、平成20年は40、今年は38と1/3近くまで減少している。
この理由としては路上駐車を取り締まり強化の他に、ガソリンの高騰などによってクルマ利用が減ったということも考えられる。また車庫証明の発行数が減っていることから、若者のクルマ離れといったことも推測される。
ただし、こうした状況にあって、荷捌き車両は平成9年に約1000台、現在でも約800台程度と、あまり減少していない。

(早瀬委員)

- 環境モデル都市の取り組みの観点からは、自動車の総量規制が一番のポイントである。クルマ利用から、公共交通や自転車に転換してもらう必要があるので、駐車場を駐輪場に転換するということも必要なのではないかな。

(長谷川委員)

- 駐車場の整備量を考えるにあたり、対象地域の面積の何%を駐車場に充てるのかとか、一箇所あたりの適正規模であるとか、小規模なものを自由に整備・転換できないように制限すべきかどうかといった視点を検討いただければと思う。

(塚口会長)

- 今回の整備計画としては、配置の議論が必要であり、「歩くまち・京都」のまちづくりに整合した駐車場の配置計画が重要になるのではないかな。

(塚口会長 (まとめ))

- 本日、委員のみなさまから多様のご意見を頂戴し、現状認識として、
 - ・大きく駐車場が不足している訳ではないが、駐車場に関する問題は依然として存在している。
 - ・京都市の「歩くまち・京都」の方向性に整合する対策を検討していく必要がある。ということが、合意できたのではないかな。
- 次回は、資料-5の各ポイントについて議論していくこととしたい。
- 環境重視、賑わいの創出につながる整備計画を策定していきたい。

(5) その他 (事務局から)

- 次回協議会については、来月に予定しております。後日改めて日程を連絡いたしますので、よろしくお願いします。

(6) 閉会 (水田交通政策監挨拶)

- 委員のみなさまにおかれましては、お忙しいところ参集いただき、大変熱心にご議論いただき、ありがとうございました。
平成8年に現駐車場整備計画を策定してから、当時の村山内閣後の総理大臣は8人を数えるとともに、環境問題がクローズアップされるなど社会経済の状況は大きく変わっています。京都議定書の発効の地である本市が誇れるような、全国のモデルとなる駐車場計画を策定できるように取り組んでいく所存であります。
本日は、長時間にわたり誠にありがとうございました。

第1回京都市駐車場整備連絡協議会 出席者名簿

分野	所属・役職	委員氏名	出欠	代理
学識経験者	立命館大学理工学部教授	塚口 博司	出席	
	京都女子大学現代社会学部教授	横村 久子	出席	
	京都大学大学院工学研究科准教授	山田 忠史	出席	
	岐阜大学工学部准教授	倉内 文孝	欠席	
有識者	京都商店連盟 会長	早瀬 善男	出席	
	京都百貨店連盟 事務局長	織田 厚	出席	
	(社)京都府建築士会 常務理事	山田 敬子	出席	
駐車場関係団体	(財)京都市駐車場公社 事務局長	大橋 明	出席	
	京都駐車協会 会長	青木 善男	代理	理事 津田 和雄
	全京都駐車場協会 会長	島田 哲夫	代理	副会長 村上 正洋
市民公募委員	市民公募委員	芝原 直子	出席	
	市民公募委員	長谷川 吉典	出席	
	市民公募委員	松田 直子	出席	
関係行政機関	国土交通省 近畿地方整備局 京都国道事務所 副所長	西海 俊幸	代理	調査係長 田尻 尚登
	京都府 建設交通部 道路建設課長	松浦 章	欠席	
	京都府警察本部 交通部 交通規制課長	川村 猛	代理	課長補佐 前田 昭人
	京都府警察本部 交通部 駐車対策課長	田中 喜治	出席	
京都市関係課	都市計画局 歩くまち京都推進室長	佐伯 康介	出席	
	産業観光局 商工部 商業振興課長	高見 孝幸	出席	
	都市計画局 都市企画部 都市計画課長	岩井 英人	出席	
	都市計画局 建築指導部 建築審査課長	溝上 省二	出席	
	都市計画局 歩くまち京都推進室 企画課長	林 裕之	出席	
	建設局 建設企画部 建設企画課長	古川 衛	出席	
	建設局 土木管理部 道路河川管理課担当課長	長田 博文	出席	
	建設局 土木管理部 自転車政策課長	横木 孝司	出席	